



## 【絶対信仰によって生きると決断する一年(4)】

マルコの福音書9章14-29節/暗唱聖句:マルコの福音書9章23節

ジンナムチョル  
説教:鄭南哲 牧師

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！クリスチャンはある意味、神様の恵みと力を経験した人たちです。それにもかかわらず、我々は現実という谷間で時には無気力と絶望を経験しなければならないジレンマの中で生きています。時には説明しきれない人生の苦しみを味わう場合もあります。その苦しみは自分の苦しみである場合もあり、時には愛する家族や友達の苦しみの場合もあります。隣り人の苦しみをみながら自分にはなにもしてあげれないと言う無力感を感じながら落胆したことはありませんか。

今日の聖書本文も似たような状況をよく表しています。本文に出てくるある子どもは“小さい頃から”おしの霊につかれています。原文には“生まれながら”になっています。我々はこの一生涯の苦しみのため悲しまれている人間の悲しさを見ることができます。

子どもの父親は自分の愛する息子のためになんとかしてなおしてあげようとしてあらゆる方法でためしたと思います。しかし、何もききませんでした。そのうちにイエス様と弟子たちのうわさを聞いたでしょう。イエスキリストからの力をきせられた弟子たちを通して多くの人が癒されると言ううわさを聞いて、自分の息子の病気も癒していただけないかという最後の望みをいだいて弟子たちに駆けつけたかも知れません。

イエス様の弟子たちはこのおしの霊につかれた子どもを癒すためにいろいろやったかもしれませんが、一生懸命に祈りもし、霊を追い出す命令もくだしたはずですが。“ナザレのイエスの御名によってこの子から出て行け！”しかし、なんの方法も通じませんでした。その時弟子たちもどれだけ戸惑ったでしょうか。丁度、山から三人の弟子たちと下りてきたイエス様はこの無力と戸惑いと、絶望の現場に現れました。本文の28節で弟子たちはイエス様にとっても大切な質問をします。“イエスが家に入られると、弟子たちがそっとイエスに尋ねた。「どうしてでしょう。私たちに追いつけなかったのですが。」(28節)”

これはつまり、どうして我々が治すことができなかつたのでしょうか。どうして我々は何もできなかつたのでしょうか。いったいなぜ？なぜ？”という意味だったでしょう。

イエス様はこの質問に対して答えを与えて下さいました。要するに二つです。“信仰がなく”そして“信仰が薄い”ことです。イエス様はこの世代に向って信仰のない世代だと言われました。これはマルコの福音書だけではなくマタイの福音書とルカの福音書にも記されています。それほど聖書の記者たちはこの出来事を大切にみたのです。同じ出来事を記録しているマタイの福音書17章19,20節はこのように語っています。“そのとき、弟子たちはそっとイエスのもとに来て、言った。「なぜ、私たちに悪霊を追い出せなかったのですか。」イエスは言われた。「あなた方の信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、「ここからあそこに移れ」と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。”

イエス様はこのマタイの福音書の御言葉をとおして絶望を希望に変える信仰について語ってくださっています。我々は果たしてどんな信仰を持つべきなのか主(おも)に3つのポイントについて教えてくださいました。

**一つ目はイエス様に対する信仰です。**

父親が自分のかわいそうな息子を連れて始めに訪ねていたのはだれでしたか。イエス様の弟子たちでした。こんにちで言うと、牧師先生やキリスト教専門カウンセラーか、精神科医者にたずねてきたと言えるでしょうか。彼らが解決のカギを握っているのではないかという希望をもって彼らに相談し、助けを求めました。しかし、結果的に彼らは究極的に解決を与えられませんでした。もちろん、誤解しないで下さい。教会や牧師がなにも助けにならないということ言うのではありません。ただ、ある職務をもっている人に尋ねたという事実だけでは究極的な助けにならない可能性もあるということ言っているのです。ところが、みなさん！今日の本文に出てくる父親はずばらしいところがありました。分かりますか。彼はそんな状況においてもあきらめないで待っていたことです。待っているうちに父と息子はイエス様に出会えたことです。そして、ついにイエス様がこの出来事に介入される場面を我々は見ることができます。

ですからみなさん！結局牧師や伝道師など、つまり神様の働きをする人は何をする人ですか。たえず、イエス様を教える人です。礼拝堂や祈りや相談などは案内表示板のような役割をしようと言えます。表示板自体は目的地ではないでしょう。表示板に東京という文字と矢印があるといってそれ自体が東京ではないのと同じです。東京に行くようにと方向を教え、案内してあげることはありませんか。同じように、牧会者は人々を、信徒たちをイエスキリストに導き、キリストに向うようにとたえず、助ける人です。教会は何を意味していますか。教会のかしらなるイエスキリストを表わします。牧師の説教や、キリスト教的カウンセリングや祈りがひたすらしているのは誰ですか。イエス・キリストです。ある有能な牧師に出会い、カウンセラーに会ったと言え、すべての人が全部変わる事ではなりません。一人、一人がイエス様のみあげ、イエス様に出会う時のみ、究極的な問題が解決され、変えられるのです。

本文に出てくる弟子たちの姿、そして自分の息子を抱いている父親の哀れな姿を考えて見て下さい。おそらく父親はイエス様の弟子たちにイエス様のようなわざが表されることを期待していたかもしれませんが。弟子たちも以前自分たちが悪霊を追い出し、病気をなおしたと同じように繰り返してやってみましたが、父親の期待には応じませんでした。彼らは結局イエスに会うときまで待つしかありませんでした。弟子たちのいるところに来られて状況説明を聞いたイエス様はなんとと言われますか。“彼をわたしにさせなさい。”と言われます。おしの霊につかれた子どもはイエス様の前に来ました。イエス様の御前に来た時、ようやくすべてが変わり始めました。我々は教会をとおして、牧師をとおして、聖書の学びをとおして身につけられるべきことがあれば、それは信仰の形や人ではなく、イエス様に出会うべきであり、そのイエス様に向うことです。そのとき、我々も変えられ、回復とまことの癒しを経験することができるのです。キリスト教に対するうわべだけの信仰の形だけでみなさんの人生が変えられるとあまくみないでください。それだけではいけません。礼拝をささげる人々には二つの部類があります。

“ただ教会堂に座って”礼拝をする人がいれば、“神様の御前で”礼拝をする人がいます。みなさんは今どちらの方ですか。

始まった今年ももう一度イエス様に集中し、イエス様にもっと近寄り、毎日主の御前に出て、イエス様のみを信じ、みあげる絶対信仰として新しくされる2012年になりますよう切にお祈り申し上げます。

### 二つ目に、イエス様の力に対する絶対信仰を持たなければなりません。

本文の22節に、子どもの父親はイエス様に何と言いながら助けをもとめていますか。

“この霊は、彼を滅ぼうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください。”これに対するイエス様の答えはもっと興味深いです。[できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。](23節)“できるものなら”ということばがイエス様の気にさわられたようです。

イエス様は父親の確信のなさそうな言葉から信仰をあきらめてしまった者の絶望を見抜かれました。これは厳密に言わせると、イエス様の御力を信じて積極的に助けを求めている者の姿ではありませんでした。ほぼあきらめている状態で、最後に言い投げてみる救助要請に過ぎませんでした。“あなたの弟子たちがみな失敗したのであれば、あなたさまも、しかたなくできないのではありませんか。”という心境だったかも知れません。

何の希望もないその言葉に[“できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。]と言われるイエス様に父親の告白がすぐさま変わります。24節です。“するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」”このすがたこそが正直な姿ではありませんか。初めからイエス様にこのような姿勢で出ていたらどうなったのでしょうか。“主よ。もう絶望です。あきらめました。イエス様が癒してくださるのか確信がありません。私の信仰がこんなに弱くなりました。しかし、イエス様助けてください。私の不信仰を赦し、助けてください。イエス様に言われてようやく子どもの父親は自分の不信仰さを具体的に表わしながら、イエス様に助けを求めている姿を見ることができます。

同じ出来事を扱っている**マタイの福音書17章20節**ではイエス様が弟子たちになんと言われましたか。弟子たちが子どもを直せなかった理由についてイエス様は“あなたがたの信仰が薄いからだ。”と言われました。弟子たちには**信仰が薄い**と言われました。イエス様は一般的に当時、その世代を“不信仰ないまの世だ。”と指摘されました。そしてその父親の心の奥底にある不信仰を見抜かれました。それにもかかわらず弟子たちには“あなたがたは不信仰だ”とは言わず、ただ**“信仰が薄い”**と言われました。

愛する信仰の家族のみなさん! 弟子たちは決して信仰がない人々ではありません。ある時はちゃんと信じたのに、ある時には信じなかったかも知れません。ある時は信仰によって働きますが、ある時は信仰を失ってしまうこと、私はこれが**信仰者たちの不信仰**だと思います。信じている人々でも時には、**不信仰の人**のようにじたばたしている場合がときどきあります。イエス様は彼らに**不信仰だ**と言われませんでした。信仰が薄いと言われました。これはつまり、いま、この瞬間、この問題だけは神様にゆだねきれない事です。自分の信仰を使っていないことです。神様を完全に信頼しきれない時、それは神様の御力を制限してしまうことです。

神様を100%信頼できず、頼れない時、それは神様の御力を制限してしまう結果を招いてしまいます。我々の軟弱な信仰がイエス様の御力を制限してしまいます。みなさん! 信仰は成長し、信仰は動き、信仰は生きています。

イエス様が病人たちを癒すたびに使われた言葉はなんでしたか。“**あなたの信仰のとおりになれ。**”でした。

私はこの御言葉が真理だと信じます。わずかな信仰はわずかな結果をもたらすでしょう。大きな信仰は偉大な結果をもたらすと信じます。我々が信じる神様をちいさな神様につくらないように気をつけましょう。

どこにもおられ、すべてを御存知であり、不可能なことは何一つない神様がみなさんの人生の数々の難関(なんかん)を乗り越えさせ、神様の偉大な夢と希望とビジョンを抱かせ、ついに成し遂げられる偉大な神様の御力を信じましょう。

### 三つ目、祈りの力に対する信仰です。

本文の28節をみてください。弟子たちはイエス様に聞きました。“**「どうしてでしょう。私たちに追いつけなかったのですが。」**”これにイエス様はこのように答えます。(29節)**“この種のもの、祈りによらなければ、何によっても追いつけるものではありません。”**

マタイの福音書では“信仰が薄いから”だと答えられましたが、マルコの福音書では“祈らないから”だとされました。結局は同じ話です。我々が**信仰によって生きることができない理由を本文は祈らないからだ**と教えています。

祈りの生活がみだれて来るとき、祈りの力を失ってしまうとき、神様に対する信頼は自然に揺るがされ、信仰も弱くなってくるのは当然です。信仰が薄い**ということとはどんな意味ですか。祈りが足りない**ということです。

すると祈りとはなんですか。一言で言うと、祈りは神様に視線を置くことです。神様をみあげることが祈りです。

イエス様の弟子たちは悪霊を追い出した経験がありました。初めて、伝道に出かけた時、彼らは上からの力をいただいて、悪霊を追い出したことがありました。しかし、彼らは成功の経験だけを覚え、成功の元は忘れてしまいました。

成功の元はなんでしたか。イエス様でした。過去もできたから、いまもできるだろうと油断し、過去の経験だけを頼って、神様の働きをしようとしたとき彼らは失敗してしまいました。イエス様の弟子たちが始めのようにイエス様に頼ったならどうなったのでしょうか。病人のために祈るその瞬間も、恐れかきこんで神様に頼ったならどんな結果になったのでしょうか。彼らは祈りの形だけを覚えていたのが問題でした。

愛するみなさん! 祈る姿勢、形、努力が大切ではありません。祈りはなんですか。神様をみあげることだと申しました。現実と人々をみないで、意志的に神様のみをみあげること、これが祈りであり、信仰なのです。祈りこそが神様に対する絶対信仰の表現であり、告白であることを忘れないで、絶対信仰をもって祈りの力を信じ、祈りが足りなくならないように祈りに専念する一年となりますようにお祈り申し上げます。

メッセージをまとめます。

いま、みなさんの問題はなんでしょうか。みなさんを挫折させ、絶望に陥らせるその問題はなんでしょうか。絶対信仰をもってその問題をもってイエス様に出て行ってください。そして、その問題を主の御前におろしてください。

絶対信仰をもってみなさんの視線を直面している問題から主に移してください。全能なる主を見上げてください。絶対信仰によって、主に告白し、祈ることにより、自分の計画や自分の思いではなく、神様から与えられる信仰のとおり、成し遂げられる一年となりますよう。我らの主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン!!